第６次上尾市総合計画の策定に向けた
市民会議提言書

令和２年８月

あげお未来創造市民会議

も　く　じ

はじめに 4

★　市民会議とは 4

★　協議を進める上でのポイント 4

★　私たちの想い 5

★　提言内容の構成 6

★　未来の上尾市のまちづくり 6

１．私たちが思い描く理想の上尾の姿 7

★　未来の上尾市の望ましい姿 7

２．基本理念への提言 8

３．将来都市像への提言 10

４．分野別施策に対する提言 12

【健康・医療】 13

【協働・コミュニティ】 16

【行財政運営】 19

【防災・防犯・交通安全】 22

【福祉】 25

【都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園】 28

【子育て】 32

【文化・スポーツ】 34

【教育】 36

【産業】 39

５．参考資料 42

★　新型コロナウイルスと共存するための必要な取り組み 42

★　あげお未来創造市民会議委員名簿 52

★　あげお未来創造市民会議要綱 54

★　あげお未来創造市民会議の取組み状況について 55

はじめに

★　市民会議とは

私たち、「あげお未来創造市民会議」（以降、「市民会議」と呼びます）は、市が予定する「第６次上尾市総合計画」の策定にあたり、様々な視点から今後の上尾市のまちづくりの方向性等について協議し、総合計画[1]に反映させることを目的とした会議です。

市民の意見や要望等を総合計画に反映させるため、市内の各種団体に属する者、市内の各分野において豊富な活動経験を有する者、公募により選考された者の計 30 名から構成されているほか、市が総合計画策定に向けて設置した、庁内の若手職員でつくるプロジェクトチームのメンバーもファシリテーター[2]などとして参加しており、会議自体が一つの「協働の場」となっているのが特徴です。

★　協議を進める上でのポイント

「市民会議」は、市民と行政が一堂に会して話し合う会議であり、参加者の立場や考え方は多彩です。協議を進める上では、委員それぞれが自身の立場から積極的に意見を述べるだけでなく、お互いの考えを理解し、意見を尊重し合いながら、議論を進めました。会議ごとに司会者、発表者といった役割を持ち回りで担うようにしたことも特徴です。

また、今後の上尾市のまちづくりの方向性等を提言するに当たり、１０年後を見据えた大局的な視点を持ちながら、議論を進めるよう心掛けました。

---

[1] 総合計画とは、地方自治法第 2 条第 4 項において、その地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための計画とされており、上尾市では昭和 45 年度に最初の総合計画を策定しました。

[2] ワークショップや会議などにおいて、議事の円滑な進行をする役割の人

★　私たちの想い

「市民会議」では、固定的なグループを編成することはせず、協議テーマに応じて、各委員の専門性を踏まえたグループ構成を行ってきたほか、各回の最後にグループ発表の時間や意見交換の時間を設けるようにしました。この結果、「市民会議」の全体を通じて、一人ひとりの委員が多くの異なる意見に触れることができ、立場や考え方は違えども、「私たちの暮らす上尾市をもっとよいまちにしたい」という強い想いは共通していることも改めて分かりました。

上尾市は、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中でも、人口の増加が維持されている地域ですが、今後は人口が減り始め、ますます高齢化が進行していくことが予想されています。また、市の財政状況が厳しくなっていくことも見込まれています。しかし、こうした困難な時代状況にあればこそ、まちの活力を維持・向上させ、将来にわたって市民の笑顔が絶えない上尾市を実現していきたい。そのためには、もっと地域のつながりを育みたい、上尾市ならではの強みを磨かねばならない、従来の縦割り意識に囚われず、分野横断的な取組を進めるべきだ。そんないくつもの共通の想いが、「市民会議」の中で浮かび上がってきました。

★　提言内容の構成

１．私たちが思い描く理想の上尾市の姿、を示した上で、２．基本理念、３．将来都市像、４．分野別の施策について提言しています。分野別の施策については、次のように整理しています。

①その分野における理想の状態
②理想の状態を実現するために必要な取組
③必要な取組を実行していくに当たっての、市民と行政の役割分担について

★　未来の上尾市のまちづくり

今回の「市民会議」は、「上尾市をもっと良くしたい」という想いであふれていました。

社会経済情勢が厳しさを増す中で、上尾市の未来を一人ひとりが、自分のこととして引き受け、「オール上尾市」でまちづくりに取り組む体制づくりは、今後ますます重要になるものと思われます。市民と行政の双方が、それぞれの役割に応じて上尾市をもっと住みよいまちにしていく「協働」の取組をますます深化させていくことが求められます。

私たちの提言が、「第６次上尾市総合計画」の策定に活かされ、市民と行政が一丸となって上尾市の未来に向けたまちづくりを進めていくことを願っております。

あげお未来創造市民会議　委員一同

１．私たちが思い描く理想の上尾の姿

★　未来の上尾市の望ましい姿

　市民会議では、議論の端緒に当たって、まず、「未来の上尾市の望ましい姿」を思い描くこととしました。議論の結果、次の４つの「理想像」が浮かんできました。

人口が維持され、コミュニティの力も保たれている状態

　全国的に人口減少が進む中でも、市内の人口規模が保たれる中で、「地域内での人のつながり」が維持され、「地域の見守り体制」や「防災力」が機能して、「住民がいきいきとしている」状態が理想です。

誰もが健康でいきいきと暮らせる状態

　ウォーキングなど健康づくりに向けた活動が活発に行われるほか、子育て世代の女性、高齢者のほか、障害者や外国人など、社会的に弱い立場に置かれがちな人も含めてみんなが暮らしやすく、「誰一人取り残さない」まちの実現が理想です。

シティセールス[3]が成果を上げ、市民活動コミュニティが活発な状態

　市民の自分のまちへの関心・愛着を基盤にシティセールスが成功し、人口増が達成されるとともに、自治会活動への若年世代参加など、市民活動も活発化している状態が理想です。

子育てしやすいまちであり、教育に特化し充実している状態

　子育て世代への充実した支援を通じ、教育環境の底上げが図られつつ、子どもの個性の伸長・多様性を意識した画一的でない教育が行われている状態が理想です。

---

3 シティセールスとは、都市が持つ様々な魅力を対外的に、より効果的にアピールし、多くの観光客の訪問、特産品の販売促進、また、新たな交流人口や定住者の増加、企業立地の促進等を目的に、都市の活性化を図る活動のことをいいます

２．基本理念への提言

　市民会議では、私たちが思い描いた１０年後の「上尾市の望ましい姿」を達成するための必要な取り組みを検討し、基本理念を話し合いました。基本理念は、まちづくりに取り組む上で、基本となる視点や姿勢になります。各グループで討議した結果、１０年間共通のまちづくりの基本理念として、以下のような基本理念を考えました。

基本理念（案）： 10 年間共通のまちづくりの基本理念

グループ	基本理念
A	●創造　●協働　●共生　●発信　●受援
B	●人財育成…教育　●自助、共助、公助　●フラットシティ ●安心安全な生活を約束　●国際化に対応するオープンシティ ●互いを知り共生共栄する　●効率のよい持続可能な行政運営
C	●緑豊かな安心を感じられるまちづくり ●市民の目で次代を見据える上尾ならではの異次元のまちづくり ●市民と行政が一体となって取り組むまちづくり
D	●安心して過ごせる　●主体性の発信 ●スポーツ、文化の充実、市民活動の発展 ●公助と共助のバランスが良く、人とまちがつながる ●多文化共生　●自立して挑戦できる

市民会議における『基本理念』の検討内容

	取り組み	基本理念の要素	基本理念
Aグループ	**望ましい状態：　人口が維持され、コミュニティ力が保たれている** ●「上尾ならではのもの」や「おしゃれな街」、文化的施設の PR／安全・安心の PR／子育て支援の PR／保育料無償化など他市との差別化／地場産品を使った給食の無償化／子どもを対象としたイベント開催／若者に魅力あるまちづくり ●医療の充実／高齢者に優しいまちづくり／障害のある方に優しいまちづくり／バリアフリー ●市内の雇用創出　●緑　●男性の地域参加　●自治会活動の民主化　●場所の充実	●独創性　●文化的　●安全・安心 ●子育てのしやすさ　●移住・定住促進 ●持続可能性　●多様性　●協働 ●共生／一人ひとりを大切にしたまちづくり ●コミュニティの強化／つながり　●支え合い／助け合い	●創造　●協働 ●共生　●発信 ●受援
Bグループ	**望ましい状態：　健康で誰もが生き生きと暮らせるまち** ●社会的弱者への理解進める／公共施設を障害者にも使いやすくする／SDGs の取り組み ●若い頃から社会参画しやすい仕組みづくり／サークル・団体活動のきっかけづくり／空き施設の活用 ●ボランティア体験をしやすくする／外国人と交流できる機会を増やす／通訳・相談窓口を増やす／外国人のための防災・医療の対策／外国人の市民活動を促す ●健診受診率 100%／健診をより受けやすくする／大きな声を出す／国際スポーツ大会開催／サークル活動活発化／体協加盟団体の活性化／みんなでウォーキング／サイクリング・ウォーキングロード整備 ●子育て支援の場を増やす　●先生の働き方改革　●身近な施設を活用して子育て支援	●共生／交流　●自立　●フラット（土地も人も） ●多様性／包摂性／寛容／個性の尊重 ●協働／まちづくりへの参画／自治 ●健康／健幸／いのち輝く ●個性の尊重／自分らしく生きられるまちづくり ●共生（共栄）　●教育（学校・生涯）　●互いを知る ●インフラ整備　●安心安全　●効率化 ●持続可能（モノも人も）●約束／助け合う／扶助かつ自立	●人財育成…教育　●自助、共助、公助 ●フラットシティ ●安心安全な生活を約束 ●国際化に対応するオープンシティ ●互いを知り共生共栄する ●効率のよい持続可能な行政運営
Cグループ	**望ましい状態：シティセールスが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発** ●安全・安心を PR する／子育て世代に対し「災害に強いまち」を強調する／災害時の地域間連携／災害時に保育所で子どもを預かる　●市内スポーツ施設への来訪者に上尾の魅力を PR　●操業支援／産学協働のビジネスコミュニティをつくる／企業負担の軽減　●あげポタの活用／市のコンシェルジュを設置／斬新なイベントの開催 ●市民のニーズを吸い上げやすくする仕組みづくり	●独創／創造／上尾ならではのまちづくり　●安心を感じられるまちづくり ●移住定住／持続可能なまちづくり／人を呼びこむ、惹きつける ●魅力発信／魅力向上　●地域の活力 ●市民自治／市民参画／協働／市民が主役のまちづくり ●市民目線を持った行政マン　●職員の意識改革	●緑豊かな安心を感じられるまちづくり ●市民の目で次代を見据える上尾　ならではの異次元のまちづくり ●市民と行政が一体となって取り組むまちづくり
Dグループ	**望ましい状態：　子育てしやすいまちであり、教育が特化し充実している** ●基礎学力の充実に向け、学校ごとに特化した科目／市が学習支援教室を設ける／タブレット等の教材の充実／e ラーニングについて周知／ALT 教育のアピール　●財政的支援　●児童の健康づくり支援 ●学校でできない教育を行う／子ども食堂等フォロー体制の充実／「原市寺子屋」「おやじの会」「サマースクール」の取り組み参照／集会所活用し、自治会の協力を得る　●子どもが生まれた時や入学時などに子育て支援団体について親に周知する／上尾版「パパママカード」を作り、子育てに関して相談できる団体や機関につながる窓口を一本化 ●地域全体で子育て世代を支える空気を醸成／地域の人に子育てに関心を持ってもらう	●独創／上尾ならではの教育　●一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな対応／個性の尊重　●誰一人取り残さない（SDGs の理念）／平等／公正　●地域全体で子育て　●互助／支え合い ●未来を見据えたまちづくり／人づくり／持続可能性 ●個人の尊重（誰でも）　●上尾ならではの教育 ●自立　●共助、公助　●市民活動　●継続性 ●やり直せる／安心／セーフティーネット／挑戦 ●つながる　●スポーツ・文化の充実	●安心して過ごせる　●主体性の発信 ●スポーツ、文化の充実、市民活動の発展 ●公助と共助のバランスが良く、人とまちがつながる　●多文化共生 ●自立して挑戦できる

３．将来都市像への提言

　市民会議では、私たちが思い描いた１０年後の「上尾市の望ましい姿」とはどのような状態であるかを各グループで検討し、それを基に、以下のような将来都市像を考えました。

将来都市像（案）： １０年後に目指す将来の都市の姿

グループ	将来都市像（案）
A	●共に生きる 安心安全なまち あげお ●緑と安全 活気あふれるまち あげお
B	●住みたい 住み続けたい ちょうど良いかげん あげお ●東日本の人材交流拠点都市 出会えるまち あげお ●めざせ中核市 あげお
C	●環境共生都市 ●市民のために（本気で）なんでもやる都市 あげお ●森羅万象 われらが エナジー（or 誇り） あげお The 市民力爆発的推進都市
D	●あそびがいっぱい 笑顔あふれる街 あげお

市民会議における『将来都市像』の検討内容

	状態	将来都市像の要素	将来都市像
Aグループ	**望ましい状態：　人口が維持され、コミュニティ力が保たれている** ●住民が生き生きしている　●地域内での人のつながり　●地域の見守り体制の強化 ●防災力の向上　●共生社会（外国人などを含めた多様性）の実現	●活気　●にぎわい　●人と人とのつながり ●安心安全　●共生　●多様性	●共に生きる 安心安全なまち あげお ●緑と安全 活気あふれるまち あげお
Bグループ	**望ましい状態：　健康で誰もが生き生きと暮らせるまち** ●ノーマライゼーション　●障害者との共生　●外国人との共生 ●高齢者との共生／高齢者の社会参加　●多くの人が社会で活躍 ●介護者のメンタル良好／心も健康　●スポーツする人が増える ●労働人口増／就業定着率増加　●医療費減 ●税収増　●働く女性も子育てしやすい	●共生／平等　●健康　●個性　●人権尊重 ●いいかげん（良い意味）　●活力　●躍動　●持続可能性 ●だれもがいきいき暮らせる　●みんなに（が）優しい ●十里あげお　●安全都市　●中途半端　●めざせ中核市 ●住みたい（住んでみたい）・住み続けたい ●ウェルカム／出会える／開かれたまち　●フラットシティ	●住みたい 住み続けたい ちょうど良いかげん あげお ●東日本の人材交流拠点都市 出会えるまち あげお ●めざせ中核市 あげお
Cグループ	**望ましい状態：シティセールスが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発** ●人口増・観光客増　●企業が増える、企業活動活発化 ●税収増　●親子での活動増（施設も増）　●子育て世代が流入 ●市民が自分のまちをよく知っている　●市民が自分のまちに関心がある ●自治会に若い人が入ってくる　●若い世代の団体加入で地域活性化 ●コミュニケーション増加	●活気　●若さ　●経済活力 ●郷土への関心　●シビックプライド ●まちへの誇り　●協働　●自然環境 ●市民活動　●横串　●多様性を受け入れる ●市民の力がダイレクトに市政に伝わる	●環境共生都市 ●市民のために（本気で）なんでもやる都市 あげお ●森羅万象 われらが エナジー（or 誇り） あげお The 市民力爆発的推進都市
Dグループ	**望ましい状態：子育てしやすいまちであり、教育が特化し充実している** ●多様性を認める教育　●子どもの個性・感受性が豊か ●福祉政策が充実したまち　●子どもが平等に基礎学力を伸ばせる環境がある	●多様性／個性／寛容　●子育てのしやすさ　●人づくり／未来への責任／持続可能性 ●遊びを大事にする　●赤ちゃんが大事にされる　●子育て世代の働きやすさ ●子育て世代が笑顔で暮らせる　●子どもが生き生きできる　●平等 ●当たり前のことができる（相談・支援体制）　●雇用促進／働き口（市内）の増加 ●「～するべき」から解放（例：お母さんは〇〇すべき）　●特化した教育 ●人材育成　●定住　●住みたくなる・住み続けたくなる	●あそびがいっぱい 笑顔あふれる街 あげお

４．分野別施策に対する提言

市民会議では、１０のテーマ分類に基づき、分野別の施策について話し合いました。テーマごとにグループを編成し、次の通り整理しています。

①その分野における理想の状態
②理想の状態を実現するために必要な取組
③必要な取組を実行していくに当たっての、市民と行政の役割分担について

なお、各グループがそれぞれ以下のようなテーマについて協議しました。

協議テーマ１

グループ	テーマ分類	小項目
Ａグループ	健康・医療	健康
Ｂグループ	協働・コミュニティ	市民活動・コミュニティ支援、交流、情報共有、人権・男女共同参画・平和
Ｃグループ	行財政運営	行政運営、財政運営、公共施設
Ｄグループ	防災・防犯・交通安全	交通安全、防災・危機管理、消防、防犯、消費生活
Ｅグループ	福祉	生活福祉、高齢者福祉、障害者福祉

協議テーマ２

グループ	テーマ分類	小項目
Ｆグループ	都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園	上水道・下水道、河川、土地利用、住環境、交通、道路、環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり
Ｇグループ	子育て	子育て、青少年
Ｈグループ	文化・スポーツ	文化・芸術、文化財、生涯学習、スポーツ・レクリエーション
Ｉグループ	教育	教育環境、教育活動
Ｊグループ	産業	農業、商業、工業、観光、勤労者・就労支援

【健康・医療】

①理想の状態　健康寿命が長い／いるだけで健康になれるまち

この目標を達成するために、「人の健康」「地域の健康」「まちの健康」の３つのカテゴリーに分類しました。

人の健康

一人ひとりが「健康づくりに関心を持っている」「運動習慣を身に付けている」「病気の予防ができている」「介護予防ができている」「ストレス解消ができている」などにより、自分の健康を自分で守ることができている状態が理想です。

地域の健康

「地域住民のつながりが強く」「市民の活発な社会参加」が行われ、「市民の交流・コミュニケーションが取れる機会・場がある」状態や、「健康経営」が広く実践されている状態が理想です。

まちの健康

「健康に関する相談がしやすい」「健康診断受診率が高い」「かかりつけ医による健康管理ができている」「病院の情報にアクセスしやすい」「医療を受けやすい環境が整っている」「公衆衛生が充実」、このようなまちが形成されていることが理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈人の健康〉

規則正しい生活

- 早寝早起き朝ごはんの徹底（朝食をしっかり摂る、睡眠時間の確保）
- 食育の実践（大人への教育、家庭での習慣付け、口腔衛生、咀嚼（そしゃく）・食事の取り方を教える）

フレイル[4]予防

- 本人が気付けるきっかけや情報提供（セルフチェックの方法、家庭でできる運動を教える）
- 健康づくりを促す取組みへの工夫（健康体操にポイント付与など、参加者に特典を与える）
- 市民講座や健康体操などの健康づくり活動を推進することで、高齢者の引きこもりや認知症の予防改善

---

[4] 要介護に至る手前の状態で筋力の低下や認知機能の障害で心身が全体的に弱くなっている状態

生活習慣病予防

- 世代別・年代別の健康課題に対応した健康づくり（ライフステージ別の対策、若い頃からの生活習慣病対策）
- 高血圧の原因である塩分の摂り過ぎを改善するための「アッピー減塩運動」を計画的に取り組む

一次予防

- 健康教育、生活環境の改善、予防接種、災害・事故防止、禁煙・節酒、食生活の改善などの取組みを日頃から実践

二次予防

- 病気になっても症状が進展したり、また死に至ることがないように早期発見・早期治療の心掛け

三次予防

- 病気や障害の進行防止、病気の再発防止、機能回復、機能維持のためのリハビリテーションなど病気にかかった後の対策

心の健康

- 引きこもり対策（生きがいを与える）
- ストレス予防に関する教育機会の充実
- インターネット依存症予防
- 働く世代の健康管理やメンタルヘルス[5]対策
- スマートフォンやインターネットの長時間の利用防止のため、チェックリスト作成・提供

〈地域の健康〉

社会参加を促す

- 生きがいを見つけるために、サークル活動やボランティア活動などへの参加
- 高齢者の引きこもりや認知症の予防改善のため、市民講座や健康体操などの健康づくり活動を推進
- 人が外に出ていきたくなる機会の提供（無料の○○など魅力的なプランを企画、炊き出し・試食会、子どもも参加・多世代交流イベントの開催）
- ぶらぶら歩きができる場所をつくる（車が入ってこられない歩行者専用のエリア、興味を持って入ってみたくなる施設）
- 男女共同参画の推進（男性の家事参加、男女とも生涯現役）
- 一日一善（挨拶・声かけ・ゴミを一つ拾うなど、毎日何かよいことをする）
- 知識や趣味を生かす「まなびすと」講座の推進・拡大
- 60 歳以上の優良健康市民を対象とする「健康顕彰制度」をつくる

健康経営を推進

- 自治体、商工会（企業）が健康保険等を通じて連携

---

[5] 精神面における健康のこと。精神的健康、心の健康、精神保健、精神衛生などと称される。

〈まちの健康〉

情報提供・啓発

- 知識を提供する体制づくり（意識を変え、実行に移す啓蒙活動、セミナーのネット配信、情報を広める工夫、学習漫画）
- 市民への正しい健康情報の提供（予防に関する知識を補完するために市の広報誌や外部講師等による健康講座を継続的に開催する。）

健（検）診受診率向上のための取組み

- 受診率アップのための広報活動（自分の健康状態に危機感を持ってもらう）、動機づけの工夫（受診者へのポイント付与等）

健康づくりの担い手を育成

- サポーターを育成（サポーターが活動する場所をつくる、相談・対話）

安心して医療を受けられる体制整備

- 病院マップの作成
- 開業医と総合病院症状に応じた医療体制が整備

ストレス解消を図る

- 相談窓口の充実（SNS[6]の活用、学校での相談）

その他

- 社会活動（市民交流）への参加
- アッピー「一日一善運動」（なにかよい行いをすることで、気分の向上を図る市民活動を推奨）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

感染症予防対策を進めるとともに、生活習慣病の予防、健（検）診を積極的に受診するなど、自分自身の健康管理に取組みつつ、社会参加及び健康づくりに関する担い手となるなど、積極的な地域参加に努めることが必要です。

〈行政に期待すること〉

体操への参加や健（検）診の受診でポイントが貯まる制度や健康に関する市独自の認証マーク作成など、市民の健康づくりを動機づける仕組みの創出ほか、地域活動の担い手育成や、健康づくりに関する積極的かつ継続的な情報発信が求められます。

[6] Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用のサービスの総称。

【協働・コミュニティ】

①理想の状態　**交流・活動の場づくりができている**
いつでも活動できる場所がある、地域の活動に誰もが参加できる

この目標を達成するために、「市民活動・コミュニティ支援」「交流」「情報共有」「人権・男女共同参画・平和」の４つのカテゴリーに分類しました。

市民活動・コミュニティ支援

各地域単位など、歩いていける距離に市民が集える場を作り、誰もが気軽に地域活動に参加でき交流を深め、地域の支え合いを生み出している状態が理想です。

交流

国や世代を超えた「交流」が日常的にあることで、「人権・平和」といった問題をも意識できることになり、誰にとってもやさしいまちである状態が理想です。

情報共有

市民目線のわかりやすい情報発信、地域内での災害時の情報共有をすることで、地域集団による支え合いが生まれます。市民団体や行政、地域の連携により、何時でも安心できる状態が理想です。

人権・男女共同参画・平和

協働を通して誰もがまちづくりに参画でき、すべての人が平等で平和なまちである状態が理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈市民活動・コミュニティ支援〉

- 市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す
- 各地区に、誰でも集えるような憩いの場を設ける（歩いて行ける身近な場所に多目的に使える場の創出）
- 各地域に集いの場づくり（緩い集まり・サロン的な場への支援、空き家有効活用など）
- 市民団体のつなぎ役を行政が担う（連携のサポート）
- 地域デビュー支援事業の回数増（１回／年⇒２～３回／年）
- フィジカルディスタンス[7]を保ちつつ気持ちの距離を遠ざけない工夫
- オンラインでのコミュニティ支援

---

[7] 物理的距離をとること

- 施設のWi-Fiの整備
- 市民が利用しやすい（料金・大きさ・数）交流場の確保

〈交流〉
- 市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す
- 引きこもりの人たち向けの就労場所を確保
- 世代や立場を超えて、地域や学校でお互いを知る（伝統文化継承事業、異文化の受け入れ、保育施設と高齢者施設の交流）
- 地域のリーダーの育成、担い手の育成

〈情報共有〉

全体
- 情報の信頼性の向上
- 共通言語を「やさしい日本語」にする（誰にでもわかり易い情報の発信）
- 外国人が気軽に相談できる行政サービス窓口の充実（文書を分かりやすく、相談場所の明示）
- 伝承文化センターの設立
- オンラインの情報共有の強化

災害
- 各家庭への無線ラジオの設置
- 災害時専用の情報センターの設置
- 駅や大型スーパーへの情報発信ディスプレイの設置
- 高齢単身世帯に情報発信のディスプレイを設置
- 広報以外の媒体による情報発信の強化
- テレビ埼玉で上尾の番組を放映
- 防災無線の改善（やさしい日本語や多言語による情報発信等）
- 防災マップの精度向上
- 市民目線に立った情報発信

〈人権・男女共同参画・平和〉

人権・平和
- 啓発機会やツールの充実　（市民に対する啓発の充実、講演・講座等の定例会の実施、悩んでいる人の電話相談）
- （国・人への）思い込みを捨てる（偏見に気付くこと、あいまいな言葉について考える、相手のことを知る、転入外国人の子どもの学校へのスピーディーな受け入れ）
- 人権教育、平和教育の充実

- 性的少数者への正しい理解の推進（学校教育の充実、同性パートナーシップ証明制度[8]の導入）
- 学校における情報モラル教育の充実（学校でスマホや SNS の使い方を教える）
- 市役所における女性職員登用の推進

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

市民主体でイベント・活動を行うために、リーダー養成講座への参加や積極的な意見交換をする場への参加など、教育・人権等の活動をはじめ様々な分野で情報交換・共有に努めるとともに、市民目線に立った情報を発信することが必要です。

〈行政に期待すること〉

交流活動場所の提供や担い手の育成など市民活動を支援するための仕組みづくりに努めるとともに、協働・コミュニティに関する情報のほか災害等に関する情報などの提供・発信の強化、市民目線に立った対等な協働の在り方を検討することが求められます。また、人権等に対する理解のさらなる浸透も求められます。

[8] 地方自治体が、同性カップルに対して、二人のパートナーシップが婚姻と同等であると承認し、自治体独自の証明書を発行する制度

【行財政運営】

①理想の状態　市民・民間等との協働の推進

この目標を達成するために、「行政運営」「財政運営」「公共施設」の３つのカテゴリーに分類しました。

行政運営

自助・共助・公助の分担を明確にし、市民との協働により効率的・効果的に事業を進め、選択と集中による事業の重点化や効率化を図る体制が整っている状態が理想です。

財政運営

事業のスクラップ＆ビルド[9]により、少ない費用で効果的な事業の執行を行うとともに、歳入を増やすため、地元の雇用を増やし、人口が増えている状態が理想です。

公共施設

施設の安全性を確保するとともに、障害者や高齢者、子どもなど多様なニーズに応えられる場として機能している状態が理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈行政運営〉

行政運営のスリム化

- 外部の民間人材の活用
- ICT[10]を活用して行政運営を分析
- 行政サービスのワンストップ化
- 民間事業・NPO[11]法人との連携
- 業務の効率化のための、事務事業の見直しを図る
- 行政が団体同士のつなぎ役を担う
- 事務事業の分担化（自助・共助・公助）の明確化
- 市民参画による区分を明確にした施策化の推進

---

9 採算や効率の悪いものを整理し、新たに効率的なものを設けること
10 情報処理および情報通信、つまり、コンピューターやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称
11 様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称

協働

- 地域でできるものは、地域で取り組む
- 公助、共助を実行できる体制づくり
- ボランティアの支援
- 司令塔（リーダー）を置き、官民連携を進める

透明化

- 市民への説明を徹底（タウンミーティングの積極的な実施、業務過程の見える化）

多様なニーズへの対応

- 多様化するニーズに柔軟に対応する新たな施策を展開する

〈財政運営〉

財政運営のスリム化

- PFI[12]等民間の財力も活用した施策
- 予防医療（がん検診等）を将来的な扶助費の負担減につなげる
- ボランティア団体との連携
- 予算や補助金を必要な場に配分し、必要に応じて見直せるルール作りを行う
- 事務事業評価（手法の検討、外部組織による評価、客観的な評価、既得権益の撤廃、費用対効果の見極め、スクラップ＆ビルド）
- 補助金の見直し（使う側の意識も大切）

財政基盤の強化

- 地域産業への行政からの後押し（会社立地条件の改善）
- 活力ある企業を誘致し、地域の活性化を図り財政基盤を整える。（工業特区をつくり、企業を集積する）
- 人口減を抑制する施策を通じて、市民税収を安定させる
- 定期的に使用料などを見直し、収入増を図る

〈公共施設〉

効率的な施設整備

- 市民サービスの低下を招かないような効率的な施設の設置
- 土地の有効活用、公園整備
- 公共施設の統廃合・複合化、多機能化
- 小学校を別の用途で使用するなど、既存施設の転用（施設の再利用）

12 公共事業を実施するための手法の一つ。民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。

戦略的な施設整備

- 子育て世代の移住定住を促進するための保育所などの優先的整備
- 若い世代が子育てしやすい施設など、公共施設の戦略的な施設整備

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

自治会や地域団体、ボランティア活動を通して、リサイクル活動やイベントの企画・参画など自分たちでできることは自分たちで実施することが必要です。

〈行政に期待すること〉

財政基盤の強化のため、工業・農業に対するサポートの充実や、ボランティアや民間活力の活用など行政と市民の協働を探りつつ、行政のスリム化に努めることが求められます。

【防災・防犯・交通安全】

①理想の状態　　安心・安全な暮らしを実現できるまち

この目標を達成するために、「交通安全」「防災・危機管理」「消防」「防犯」「消費生活」の５つのカテゴリーに分類しました。

交通安全

事故に遭わないため、地域の見守り体制が強化され、一人ひとりの交通マナーの意識が向上している状態が理想です。

防災・危機管理／防犯

災害に備えておくこと、犯罪に巻き込まれないことなど、平常時から意識して備えている状態が理想です。また、ウィルス感染予防の観点から新たな避難所体制の確立も大切になります。

消防

消防施設見学やＡＥＤ・救命講習への参加など、一人ひとりの消防や救急に対する意識が向上している状態が理想です。

消費生活

消費者問題を考える場を創り出し、消費者被害の防止に地域ごとに取組んでいる状態、また、地産地消を促進しつつ、リサイクル意識・食品ロスの軽減などについて市民の関心が深められている状態が理想です。また、ウィルス感染予防として、テイクアウトやデリバリーなど新生活の活用も大切になります。

理想の状態に近づくためには、各カテゴリーにおいて、地域ぐるみで横断的に取り組む必要があるので、各種問題について市民意識の醸成に努め、市民が積極的に行動するまちをつくることが大切です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈交通安全〉

ソフト面

- 児童用に自転車ヘルメット着用の強化
- 自転車の乗り方改善（免許制、子ども・高齢者に対する交通安全教室）
- 免許返納者に対する市内循環バスの無料化

- 青パト[13]のスリム化・効率化　➢ 見守り隊の組織化　（市全体、補助金を検討）
- 学校との連携により事故を抑止する
- 自治会、学校などと連携した地域の危険箇所の定期的な把握

ハード面

- スクランブル交差点の設置検討（歩車分離整備工事）　➢ 街灯の増加、維持管理

〈防災・危機管理〉

ソフト面

- ハザードマップの周知　➢ 地区防災計画の策定（学校と地域が連携して防災計画を立てる）
- 事前復興計画の策定　➢ 防災教育（体験学習、自治会や学校と連携）
- 防災訓練（初期消火の訓練、一次救命措置の訓練、母子対象の訓練、避難所までのまち歩き、避難所設営訓練）
- 市民と行政とのスムーズな情報共有（防災情報の共有、SNS 等活用によりリアルタイムで情報発信する職員を配置）
- 市長による情報発信
- 有事の際の民間との協力（ショッピングモールなどと協定を結び避難所として活用）
- 市と市民の連携（有事の避難所開設を想定した市職員と自主防災組織の連携明確化、市と防災士の連絡再確認）
- 備蓄倉庫数の公開　➢ 空き家の活用（避難所や備蓄倉庫）

ハード面

- 防災用スピーカーの強化　➢ 防犯カメラの設置　➢ 避難道路の整備

〈消防〉

- 消防団との連携　➢ AED 講習、救命講習の実施　➢ 地域交流の推進

〈防犯〉

ソフト面

- 防犯パトロールの充実　➢ 防犯メールの認知度を上げる

ハード面

- 街路灯の設置　➢ 救済センターの設置（空き家の有効利用）

〈消費生活〉

- 消費者被害の防止（消費者団体と協働するお届けミニ講座）

---

[13] 青色回転灯を装備する自動車を用いて行う「自主防犯パトロール」のこと。主に地域の防犯ボランティアが運用する。

- リサイクルシステムの工夫（子ども服などのリサイクル、制服・バッグ・ジャージ等のリサイクル、リサイクル資材の商品化）
- 食品ロスの削減（食品ロスに関する研究⇒二次活用など）
- SDGs[14]への取組み（プラスチックごみの削減、ごみの減量）
- 地産地消の推進（野菜などの直売所設置）
- 子ども食堂への支援
- あげバルの広報活動
- 困った時の窓口明確化（高齢者の買い物サポート、処分事業者の紹介）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

日頃から近隣住民とコミュニケーションを取り、個人でも有事に備えた行動と冷静な判断が必要であり、交通安全や防災・防犯に関する情報共有や市民参画を通して、分野横断的に市民意識の醸成に努めることが必要です。

また、「消費生活」でも「防災・防犯」との分野横断的連携が求められますが、特に高齢者の消費者被害防止については「福祉」との連携を意識して取組みます。

〈行政に期待すること〉

自転車道の整備や防犯カメラの設置など交通安全・防犯に関するハード整備や、地域防災計画の指導や空き家バンクの活用などソフト面の仕組みづくりが求められるほか、地域のリサイクル情報の提供、避難者数などの情報発信や避難所の運営など、地域安全に関する各種取組みのＰＲを行い、市民との協働・連携による安全対策が求められます。

複合災害の際は、横断的な取り組みを通して、行政だけでなく市民一体となった対応が重要になります。

---

14 「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。SDGs（エス・ディー・ジーズ）と発音する。2030 年までに、持続可能でよりよい 世界を目指す国際目標。 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを宣誓。

【福祉】

①理想の状態　**障害の有無や年齢、暮らし方などに関わりなく、誰もが参加できるコミュニティがある状態**

この目標を達成するために、「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の分野を横断して、「みんなにとって良いこと」を１人でも多くの人が考えている社会を実現する必要があります。だれもが福祉の受け手であり、担い手であるという考えを皆が持つことが重要になります。

生活福祉

「ひとり親世帯や貧困について、地域の人たちの理解がある状態」や「生活保護に至る前にセーフティーネットが働く状態」など、市民意識の醸成や支援の仕組みが整っている状態が理想です。

高齢者福祉

「安心して暮らせる」「生きがいを持てる」など高齢になっても安心感がある生活を送ることができる状態が理想です。

障害者福祉

障害のある方や高齢者が、その人らしく暮らせる社会が実現されていることが理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- ハンディキャップのある人が普通に生活できるようにする（表に出てこない、福祉を必要としている人の支援、ひとり親や障害者の支援、誰でもアクセスできて人との関わりが持てる場をつくる）
- ノーマライゼーション[15]の理念を伝える取り組み
- 体験を伴う福祉の講座（福祉施設等での体験学習など）
- 福祉を生活の一部として取り入れてもらう、認知度不足等で様々なサービスが有効活用されていない現状を改善する（今あるサービスの認知度向上、「介護サービスを受けるのが恥ずかしい」といったイメージの解消）
- 福祉サービスの質と量の向上
- 福祉の担い手の育成
- 相談支援体制の確立（必要な支援機関につなぐコンシェルジュ[16]を設置、市民側の「相談する力」の向上促進）

---

15 障害者や高齢者がほかの人々と等しく生きる社会・福祉環境の整備，実現を目指す考え方。

16 特定の分野の情報などを紹介・案内する人

- ボランティアの充実（サービスを必要としている人と提供する人をつなぐ、地域の中でお助けボランティアをつくり、枝切り・草むしり・子守等を有償または無償で行う）
- 引きこもりの人の支援（高齢化する引きこもり者への対応、金銭的な援助や家庭で抱えず社会へつなぐ支援を）
- １歩外に出たくなるような支援（市内循環バスの本数増加）
- 働き方の改革（個々人に応じた多様な働き方、就労支援、再雇用支援、一つの仕事を複数人が担う多能工の導入、企業に対する福祉・介護・子育て講座開催、賃金格差の是正、子どもが病気の際に休める制度、育児休暇の取得促進）
- スポーツ少年団など社会教育団体の充実
- 地域で高齢者が気軽に参加できる場を設ける（地域の安否確認システムの充実）
- インフラ[17]整備（ユニバーサルデザイン[18]、バリアフリー、多機能トイレなど）
- コロナによる失業者を積極的に福祉や介護の仕事へ結びつけるための支援

〈生活福祉〉
- ひとり親のシェアハウス[19]
- 引きこもり支援相談センター等、行政の連携・チームづくり

〈高齢者福祉〉
- 健康寿命の延伸を図る（ラジオ体操・ウォーキングなどスポーツしやすい環境整備）
- 自立支援（高齢者の自立を支えるサークルの充実、講座の設置、高齢者がオレンジカフェ[20]などの運営者として関われる支援）
- 西口にも東口の「ことぶき荘」のような老人福祉センター施設を設ける

〈障害者福祉〉
- 様々な障害に対して市民の方の理解を深める
- パラスポーツの普及
- 障害のある方の話を聞く機会を設ける
- 空き家の活用（住まいの保障）
- 子どもたちへの啓発
- 就労支援（いっしょに働くことで身近な存在となる）

---

17 「生活の基盤になるもの」という意味

18 高齢であることや障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること

19 一つの住居を複数人で共有して暮らす賃貸物件。一般的には キッチンやリビング、バスルームなどを共有し、プライバシー空間として個室を利用する。

20 認知症の方、家族、地域の方や専門職が気楽に集まり、認知症のことや介護に関することの相談・情報交換ができる場のこと。オレンジカフェの名前の由来は、認知症サポーターのシンボルカラーがオレンジであることからきている。

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

「できる人ができる時にお声がけをする」「障害者や高齢者の生活を見守る」「自分が利用した福祉サービスをSNS等で発信する」、近隣の人の気配りなど、「誰もが住みやすいまちの実現」に向かって、身近なところから積極的に交流・活動することが必要です。

〈行政に期待すること〉

歩道や施設のバリアフリーの整備などハード面の整備と、働き方改革や障害者や高齢者の相談支援、交流機会の充実などソフト面の整備のほか、福祉サービスへの認知向上など広報活動を通した、情報発信が求められます。また、男性の育児休業取得推進など、市職員が率先して働き方改革に取組みアピールすることが求められます。

【都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園】

①理想の状態　SDGs の実現に向けて行政・市民一体になった都市づくり

この目標を達成するために、「上水道・下水道、河川」「土地利用・住環境」「交通・道路」「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」の４つのカテゴリーに分類しました。

上水道・下水道、河川

災害時にも安心・安全な水を継続的に供給するなどライフラインが確保され、持続可能な上下水道経営が適切に運営されている事が理想です。また、浸水被害の低減のため、河川が整備され、雨水タンクが設置されている状態が理想です

土地利用・住環境

周辺環境と調和のとれた柔軟な土地利用を図るとともに、緑地が適正に保全されることで、住みたいと思うまちと感じられる状態が理想です。

交通・道路

都市計画道路や生活道路などが整備され、自転車道の整備など自転車利用環境が整っており、各拠点へのアクセスの利便性が高い状態が理想です。

環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり

災害時も対応できるオープンスペースなどの緑地確保や大規模公園の整備ほか、SDGs に関わる取組を推進し、効率的、効果的なリサイクルが推進できている状況が理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- SDGs 未来都市への立候補
- SDGs の取組みに目配り
- 市民への SDGs の周知
- 行政が指導者育成
- 「制限があるからできない」をやめる
- 市民参加の制度づくり（若者を重視）

〈上水道・下水道、河川〉

上下水道

- 設備の計画的な保全・改修（古い水道管の取り換え、下水路の整備と改修事業の推進、配水場、配水管の更新、長寿命化）
- 都市下水道の改修事業の推進

- 整備においては優先順位を付ける。適切な料金体系
- 効率的な事業運営（水道事業の広域化、持続可能な水道サービスを運営するため計画的かつ効率的な事業運営にする）
- 水質基準に適合した水の供給の継続
- 災害時の強化
- 給水車の配備、貯水槽の設置
- 浄水場間の連絡管の整備

河川

- 浸水被害の軽減（雨水貯留施設の整備促進）
- 総合的な計画を策定する
- 河川の活水機能を高め河川等の整備を進める
- 鴨川、芝川の水質管理と増水対策
- 親水公園などの整備（水と緑を多くする、美化に努める）
- 行政・市民一体となった国・県への整備促進の要望

〈土地利用、住環境〉

土地利用

- 区画整理を進める（規定にとらわれない整備）
- 土地利用制限の緩和
- 柔軟な土地利用制度
- 農地や自然環境を保全しつつ、秩序ある土地利用を図る
- 企業誘致を行う場合、周辺環境への配慮（特に公害等）を徹底するように
- 遊休農地の活用→作る・育てる→食べる・販売する（イベント化する）
- 必ず起きる大災害に対応して、余剰地の確保が必須
- 空き地など活用によるオープンスペースの確保
- 地域コミュニケーションの活性化（連絡体制の確立）
- 街づくり協議会の活用推進

住環境

- 狭小住宅やワンルームマンションの規制（狭小土地の建築物規制）
- 余剰施設等を活用し、コミュニティの場を整備する
- 小規模開発の抑制
- 二世代三世代の同居の推進（二世帯住宅の建築奨励等の強化、若い世代が住みたくなるよう地域内のよいところアピール）
- 多世代間交流可能な高齢住宅用集合住宅の整備
- 子育て・仕事・地域参加などのメリット
- 地域住民主体の取組みの強化
- 住民参加しやすい体制、仕組みづくり
- 「地域住民」と「市民ボランティア」の協力・連携
- 自治会の運営（高齢化でやり手がいなくなる）制度を作る(ex.さいたま市)
- 地区計画制度の推進

〈交通、道路〉

交通

- 公共交通の再配備（見直し）：
  ぐるっとくん増やす、料金を上げる、バスではなくても大型車の利用などぐるっとくんの効果的運用、交通ネットワークの充実（鉄道・公共交通）
- 自転車利用の推進
- 移動手段、公共交通のニーズを調査
- 的確な維持管理　長寿命化

道路

- 国道・県道の整備促進要望（市内 17 号の渋滞対策、上尾 BP の整備促進）
- 上尾道路沿道の適切な土地利用の推進
- 都市計画道路の見直し
- 道路の整備（狭あい道路、都市計画道路）
- 道路の計画的な保全・改修
- 幹線道路の地下化の検討
- 生活道路の通過目的の自動車進入規制を図る
- 自転車利用環境の整備（駐輪場、自転車レーン整備による安全性の確保）
- 街路樹の適正管理（計画策定）
- 渋滞緩和の対策（駅前ロータリーの拡張整備）

〈環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり〉

緑・公園

- 緑豊かな公園やオープンスペースの維持・整備（災害時にも活用）
- 屋上緑化や壁面緑化の促進
- 緑化は市民義務として住居周辺の緑化の推進
- 生産緑地の保全（オープンスペース確保）
- SDGs を意識した、持続可能な農地の保全・創出

環境

- 環境配慮意識の啓発及び活動（住民、あらゆる層に環境教育を計画的に行う、意識向上への取組み（イベント開催、教育へ取り入れるなど）、子ども（小中高）環境学習の体験授業の実施）
- 地球温暖化対策の促進
- 地域の担い手となる市民の育成
- 学校教育と環境保全活動の連携
- 「クリーン上尾運動」の拡充
- 節水を心がけ、汚水を流さない
- 地域住民ボランティアによる環境活動の実施

廃棄物・リサイクル

- ゴミの減量・分別、再資源化の促進
- リサイクルできない物の生産禁止
- リサイクルセンターを自治体ごとに作って回収する
- エコバッグポイント等上尾でも取り組んでみる
- 食品ロスをなくす（事業者、家庭一体となった取組み）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

SDGs の目標の理解に努めるとともに、ゴミの減量・分別、食品ロス削減に取り組むほか、若者を中心とした次世代のリーダー育成や地域の環境活動への参加、市民参画を通した条例制定など積極的な市民参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

ハード面では、災害時にも対応できる上下水道整備や安心・安全な道路や河川整備など、災害に負けないまちづくりが求められているとともに、利便性のよい公共交通や緑や水辺環境の整備など良好な住環境の整備が求められます。また、適切な維持管理として計画的な修繕や改修（長寿命化）のほか、ソフト面では、住民がまちづくりに参加しやすい体制・仕組みづくり、ボランティアが活動しやすい環境整備など市民参加の制度づくりが求められます。

【子育て】

①理想の状態　「安全・安心に子育てできる」「頼れる」
「子どもたちの希望や自己肯定感が生まれる」環境がある

この目標を達成するために､「子育て」「青少年」の２つのカテゴリーに分類しました。

子育て

安全・安心に子育てできる環境が充実している状態が理想です。仕事と子育ての両立や母親が（精神的にも）孤立しない環境を作るためには、周りの理解や相談できるような頼れる人物が必要となり、地域で子どもを育てる意識が大切です。

青少年

多様な育ちを認めることや、地域との関わり合いを持ちながら、安心して集える場を創造すること、地域の見守り活動等の拡充により、子どもたちが自由に学べる環境が整っている状態が理想です。

このことから地域の人と関わり合いを持てる場所や機会を創出することで、安心して集える場の創造につながると考えます。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈子育て〉

子育てと仕事の両立

- 柔軟な労働時間
- 子育てについて有益な取組みをしている企業へのフォロー（補助・周知）
- 個人に対してプッシュしてお知らせできる仕組み（個別のお知らせ通知）

孤立しない

- 積極的な情報提供※個別的にお知らせ（妊婦さん etc.）
- 子育ての準備ができる場所づくり（つながりの場）
- 社会が切れ目なく支援できる仕組み
- 子育て世代に向けた相談窓口の設置
- 当事者に寄り添った相談体制の充実

安心して子育てできる

- 父親が子育てを学ぶための場の提供
- 失敗経験を共有できる環境

- 保育時間の拡充（必要量を選択できる）
- 貧困対策の取組み PR
- 地域の見守り体制の構築

施設が充実している

- 子育て施設の充実（補助金の活用）
- 子育てに必要な財源を確保する
- 働き手の確保（学童 etc.）
- 人材育成への投資
- 障害の有無にかかわらず一緒に過ごせる環境づくり

〈青少年〉

安心して子育てできる

- 居場所の提供・活用（児童館 etc.）たまり場
- 十分な学習の機会が持てる取組み（取り組んでいる団体のフォローetc.）
- 学校の ICT 化、学習の場所提供
- 多様性[21]に対する行政の正しい理解（職員研修 etc.）と市民への啓発
- 行政関係者がニーズを的確に把握する（研修等）
- ボランティアマネージメントに対する支援を行政が行う

地域の人間関係

- 子育て世代と中・高生の交流の場づくり
- 子どもが集まれる場所（自由度の高い）
- 団体への柔軟な対応（場所の提供 etc.）

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

子育ての経験を生かしたボランティア活動など市民団体への参加や子育て失敗談、子育て世代へのアドバイス等の情報を共有するとともに、地域の青少年の見守り活動などへの参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

子育て世代のニーズを把握するとともに、子育て施設の維持・再整備や働き手の確保のための補助金の支給などが求められます。また、地域の居場所づくりや多世代交流の場の創出など、子育て・青少年育成のための環境づくりが求められます。

---

21 家庭環境、国籍、ジェンダー、発達障害など

【文化・スポーツ】

①理想の状態　**文化・芸術・スポーツ・レクリエーションに多世代で楽しみながら取り組める状態**

この目標を達成するために、「文化・芸術、文化財」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」の３つのカテゴリーに分類しました。

文化・芸術、文化財	生涯学習	スポーツ・レクリエーション
上尾の歴史、文化・芸術に関する教育を「上尾学」として推進するなど、市民が子どもの頃から上尾について理解している状態が理想です。	市民の活動場所が確保されるとともに利用しやすい環境が整備されており、施設の利便性が向上している状態が理想です。	気軽に運動に親しめる環境が整い、健康活動が促進されており、また、「スポーツのまち」として若者に人気のスポーツ施設が整備され、広く情報発信をすることで若者の人口増に繋がっている状態が理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- 文化、スポーツに関する広報活動
- 上尾 PR コーナーの設置（文化、スポーツ）
- 文化、スポーツ全般の PR、ブランディング[22]を専門にする部署

〈文化・芸術、文化財〉

文化財の展示・施設

- 文化財展示コーナー
- 民俗文化財の展示
- 上尾市郷土博物館の新設（歴史・文化・伝統・物産品等広く市民に学ばせる）
- 市の歴史、自然、文化がわかる施設（勉強できる施設）
- 空き家の有効利用
- 公共施設の利用料金の格安化
- 公民館及び周辺の小学校の空き教室を活用したジャンル別の展示

街の中で触れる芸術の機会（催し）

- 芸術祭の開催（映像・音楽・絵画等を町の中心で一か所開催がベスト）
- 芸術展、美術展の拡大
- ぐるっとくんをミニ美術館にする
- 街の中でふれあうことのできる文化・芸術イベント

---

22 企業・商品の認知度を高め、好感を持ってもらうための取り組みのこと

〈生涯学習〉

機会の充実

- 各（自治区の）地区公民館の活用
- 施設が利用しやすい環境・利用促進（手続きの簡素化、利用者データの活用）
- 今あるインフラ（施設）の有効な活用・人材の活性化
- 上尾市の歴史・自然・民族を基とした、ふるさと学の学習
- 「地元の日」の開催（文化財・歴史に関する事業を実施する）
- 親子、多世代で楽しめる文化・芸術・スポーツのイベントの実施
- 子どもから高齢者、障害のある人、外国人など色々な人が参加できる行事の開催（共生・協働の分野にもかかわる内容）
- 生涯学習、スポーツレクを通じて、地域のコミュニケーションを強める

〈スポーツ・レクリエーション〉

スポーツのまちあげお

- 新しいスポーツのできる施設整備（ボルダリング、ハーフパイプなど）
- 新たな施設をつくり大会を開催（ボルダリング、スケートボード、BMX など　若い人に注目度が高い新しいスポーツを取り入れた事業）
- 上尾シティハーフマラソンに車いす部門や目の不自由な人のクラスを新設する
- ウォーキング用の道路の整備（大小の公園を結ぶ、みどりの通り道）
- スポーツ協会の活性化
- プロスポーツチームとの連携
- 県の施設との連携、有効利用
- 魅力のある（楽しい）スポーツレクや生涯学習を企画して、健康寿命を延ばす

③市民と行政の役割分担

　上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

　歴史・文化・芸術を子ども達に伝える機会の充実、文化祭・各サークル団体へ参画など、世代を超えた交流を通して、上尾について学習する機会を増やすほか、幅広い世代の市民のスポーツ・レクリエーション企画、イベントの参加を通した地域の繋がりの強化が必要です。

〈行政に期待すること〉

　市民が気軽に文化・芸術、スポーツに取り組めるよう、総合文化センターの整備や、市民意見を取り入れた文化・スポーツイベントの実施など市民参加の拡充に努めるとともに、「スポーツのまちあげお」を市外にアピールするなど、広報活動の充実が求められます。

【教育】

①理想の状態　**質が高く、柔軟性のある教育環境**
充実した基礎学力をもとに、発想が豊かな子どもが育つ

この目標を達成するために、「教育環境」「教育活動」の２つのカテゴリーに分類しました。

教育環境

誰もが学びやすく、教育格差のない環境を整備し、教育の質の向上につながっている状態が理想です。

教育活動

学ぶことの大切さを理解した上で、自主的に子どもがいきいき学べるような自由な雰囲気の教育活動など、夢や希望を育む教育が実現された状態が理想です。

※教育格差とは…貧困、ハンディキャップ、不登校、引きこもり、出身地や国籍などを理由に受けられる教育に格差が生まれている状態

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈教育環境〉

地域との連携

- 地域住民による授業、行事、ボランティアへの参加
- 学校と地域の情報共有
- 保護者や地域住民が気軽に相談できる窓口の設置

誰もが学びやすい

- 日本語を母国語としない児童・生徒が安心して学べる環境の整備
- 給食費の無料化
- 補講、補習の場の提供（学習支援の拡充）
- 補助金等や無償の塾などを活用し、所得格差による教育格差の減少を図る
- 学校教育における、IT[23]図書館・滞在型 Wi−Fi[24]環境の整備
- オンライン授業[25]の実施体制の整備

---

23 「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。
24 スマホやパソコン、タブレット、ゲーム機、プリンターなどを無線で接続する技術のこと。
25 インターネットを利用して行う遠隔授業のことであり、これまでと違って、1 つの教室で集まり、対面で授業を行う必要がない授業。

- 所得格差による教育格差をなくすため、ネット環境またはインターネット環境がない子どもへの支援

教員の働く環境
- 教員の働き方に対する意識改革（先生が教えることに専念できる環境整備、時間外勤務の管理、教員の勤務状況の実態把握）
- ICT を利用し、生徒間、教員間ともに県外の学校との交流を充実させる
- 教員の負担減（AI[26]等の活用や事務の簡略化）
- 優秀な人材を確保するため、教育実習生に積極的な PR を行う

教育の質
- 教員の増員と、教員研修の充実による質の向上
- 教員の構成バランスを整える
- 現場ですぐ応用できるような研修内容への見直し
- 先生を二人制にする（チームティーチング）
- 事務員・その他のスタッフ（支援員など）の数を増やす
- 教員のトレーニング（コロナ禍でのオンライン授業）

安心
- 学校教育相談の充実（相談員の常駐）
- 全地域で放課後教室を開催
- 小・中学校の数を適正化（統廃合）

〈教育活動〉

多様性
- 少人数学級を作る（コロナ等の感染症にも柔軟に対応できる体制）
- キャリア教育[27]の充実（将来を考える授業）
- 子どもたちが志を持って学べるように、将来について考えることができる授業を実施

自分らしく学ぶ
- 自分らしい学び方を通した「人」の育成
- プレゼンテーション力[28]を養えるよう、発言する場を増やす
- 集団の中で学べることを大切に（コロナ禍で個人学習が進むため）

26 「人工知能」と呼ばれるものの略称。人間にしかできなかったような高度に知的な作業や判断をコンピューターを中心とする人工的なシステムにより行えるようにしたもの。
27 子どもたちが学ぶ意欲を高め、職業人としての自分の進路を自分で決めていく力を養うための教育のこと。
28 多くの人に知ってほしいテーマや売り込みたい企画を効果的に説明するための技法のこと。

学力

- 基礎学力の充実
- 実際に使える英語教育の充実
- 習熟度別クラスの充実（適切な環境での競争と自身の成長の把握）

世代間交流

- 異学年との交流を図る

その他

- 児童・生徒を対象とした職業体験の充実

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

子どもがいきいき学べる環境づくりのために、地域の見守り活動への参加や世代を超えて一緒に学ぶことで、学びの楽しさを伝えるなど、子どもとの交流を通した教育活動への参加が必要です。

〈行政に期待すること〉

教員の働く環境改善や多様な学び方の推進のために、ＡＩ・ＩＣＴ環境の整備のほか、少人数学級の実現など、教員の負担軽減に向けた取組み、従来の形式にとらわれない世代間交流イベントの企画やキャリア教育を通した職業体験など自分らしく学べる教育活動の実現が求められます。

【産業】

①理想の状態　誰もが持続可能な働き方を実現

「産業」の理想の状態としては、「収入が安定していること」、「後継者がいること」、「働ける場があること」等、誰もが持続可能な働き方を実現できていることが目標として挙げられます。この目標を達成するために、「農業」「商業」「工業」「観光」「勤労者・就労支援」の５つのカテゴリーに分類しました。

農業

安定した収入の確保や後継者不足が解消された状態が理想です。

商業

独自性のある商店街の活動により他地域との差別化を図るほか、観光協会によるバックアップ体制の充実、積極的な情報発信が行われている状態が理想です。

工業

通勤環境が整った工業専用の区域の整備や各事業者が操業しやすく、従業員が働きやすい環境を整備した状態が理想です。

観光

歴史や自然など上尾の地域資源の再発見による新たな観光資源を創出や、鉄道など既存の観光資源の活用など、上尾独自の観光スタイルを確立した状態が理想です。

勤労者・就労支援

創業の機運を高め創業のきっかけづくりを行うための相談体制の確立のほか、働く人の健康管理を企業の責任で守る健康経営の実施、独自の情報発信などにより、高齢者や障碍者など誰もが働きやすく、チャレンジしやすい環境づくりや健康経営が推進された状態が理想です。

②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

〈全体〉

- 上尾道路沿いの活用
- 手広くやるのではなく、何かひとつの産業（項目）に絞って注力
- 上尾に住んでいる有名人の人脈活用
- 創業支援
- 知識習得、意見・情報交換ができる機会の充実

〈農業〉

後継者

- ➢ 農業法人設立による大規模農業
- ➢ 大規模な企業を誘致（従業員として雇用）
- ➢ 外国人農業実習生の活用推進
- ➢ 高齢者の活用推進
- ➢ 農業の機械化を促進（法人化、農機シェアリング）

企業

- ➢ 道の駅（直売所）拡充（上尾道路）
- ➢ 農家の意識改革（企業努力）
- ➢ 農産物の品質の維持・向上（監視員）
- ➢ 新たな商品開発

市民意識

- ➢ 地産地消の促進（市民の意識変化のための取組み）
  - ・⇒直売所の拡充、道の駅の新設（上尾道路）
- ➢ 新鮮な農産物の利点を学べる機会の創出
- ➢ 食料自給率向上のための教育
- ➢ 職業としての農業のイメージアップ、農業の魅力についての情報発信

〈商業〉

- ➢ 情報発信の強化
- ➢ 商店街の再整備（駅周辺の再開発、西口駐車場の活用）
- ➢ 特徴のある商店街づくり
  - ・食のテーマパーク化（集約した飲食店街）
  - ・ミニ竹下通りのような商業通りを整備
  - ・日中、子育て世代が集えるカフェなどを充実
- ➢ スポーツ施設来場者にお金を落としてもらえるような仕組みづくり
- ➢ オリジナルグルメなど、上尾らしい商品の企画・提案

〈工業〉

行政のサポート

- ➢ 利用しやすい補助金を整備
- ➢ 新商品の PR・販売支援
- ➢ クラウドファンディング[29]（やり方の指導）
- ➢ ベンチャーキャピタル[30]の活用支援

特区

- ➢ 工業に特化した区域を作り、市内の町工場の経営上の利便性の向上を図る
- ➢ 新しい特色ある工業団地を整備（情報化社会に対応など）

---

29 インターネットのサイトでやりたいことを発表し、賛同してくれた人から広く資金を集める仕組み

30 ベンチャー企業への投資を専門的に行う投資会社。株式未上場、未登録の創業間もないベンチャー企業に出資（株式の取得）し、その企業の事業が成功し、株式公開した際に得られる利益（キャピタルゲイン）を収入としている

〈観光〉

- 新たな目玉をつくる（上尾七福神、畑アート（耕作放棄地の活用）など）
- 新たな観光スポットと商店街などのコラボレーション（花畑＋飲食店の営業など）
- 観光関係の人材に対する支援

〈勤労者・就労支援〉

- 大手の事業所に高齢者を雇う条件等を付けて進出させる

働く人への支援

- 健康経営の推進
- 自治体として勤労者に対するフォローをしっかり行う
- 自治体と商工会がタイアップ[31]して勤労者支援に取り組む
- 高齢者や障害者が働きやすい（雇ってもらえやすい）環境づくり

③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

〈私たちが進めること〉

元気で働ける状態を保つために、予防医学へ取り組むことともに、農作物の提供よる地産地消への貢献など、産業を通した地域参加が必要です。また、上尾の魅力再発見や、若者への情報発信、新しい担い手の育成が必要です。

〈行政に期待すること〉

農業・商業・工業を維持・発展するために利用しやすい支援制度の仕組みづくりが望まれます。また、地場野菜の販売場所の提供、産業に特化した地域整備や地域資源を市外への情報発信などハード・ソフト面での行政サポートが求められます。

31 協力・提携して行うこと。

5．参考資料

★　新型コロナウイルスと共存するための必要な取り組み

各テーマにおける「新型コロナウイルスと共存するための取り組み」についてのご意見一覧

健康・医療

- 感染拡大防止の対策
- 個人が健康管理を心掛け、体調不良の際には職場等で休みやすい環境づくりに努める
- 手洗い、うがいの励行　　・マスクの着用　　・予防接種の奨励
- 免疫力をつける食事の紹介
- 免疫力を高める（運動、食事、ストレスなど）
- 学校教育における「食育」に感染症対策を取り入れる
- 市民に対する、特に高齢者を対象とした「健康づくり講座」の中に「感染症対策」を取り入れる。
- 公民館等を活用して市民に対する健康講座の場の提供と機会の増加を図る。
- 市内、県内、国内の感染状況がすぐ分かり（HP 等）、防止にあたって一人一人が具体的に取り組むことを啓発
- コロナウイルス専門の医療体制を作る
- 健康診断、健康相談（特に）が身近な医院等でも手軽に受けられる医療体制整備
- ワクチンが開発されたあとは、保険が適用される等の医療補助

協働・コミュニティ

- 手洗い・マスク・検温を徹底させる
- オンラインでの交流方法の検討
- オンラインで人をつなげていく環境をつくること。（ネット環境の整備も含め）
- コロナ差別や偏見を許さない啓発の充実
- 感染予防はもちろん取り組むが、「誰もが感染する可能性があること」が認識され、「感染しても大丈夫、迅速に検査や医療がうけられる上尾市」であることが大事。感染しても差別や偏見にさらされず、職場や学校に戻っていける上尾であってほしい。医療機関の受け入れや PCR 検査機能の充実、濃厚接触者が家庭以外で過ごせる場の拡充が重要
- フィジカルディスタンスを取りながらも気持ちの距離は遠ざけない
- 今までの公民活動とは違う事を自覚
- 自宅で各自作業（作成・練習等）を行い、集合での回数を減らす
- 集まりを企画する場合、より広めの場所を設定する（密を避ける）

・リレー形式で行えるようにする
・クラスター[32]が発生した場合を考え、必ず連絡先を確認（個人情報は守る）
・市内感染状況の適切な情報発信
・高齢者独居世帯への見守り
・グループホームや入所施設に暮らす人とその支援者は、より積極的に PCR 検査が受けられるような仕組みが必要

行財政運営

【行政運営】
・行政手続きのオンライン化の推進（市民からの申請など）
・突発的かつ非常時における市民サービスの臨機応変の組織体制の強化
・情報セキュリティの再強化策の随時見直し
・対面を避ける為の行政サービス提供方法を常に考える
・財政運営を考える上で、教育から介護までより一層 IT 化を進める
・工業・農業・住宅環境含め、上尾独自のコロナ対策特区を新設する
・行政人材確保と育成（緊急時の対応には人員人材は欠かせない）
・市民参加型連帯運動の企画推進（安全、安心の基本　緊急事態の連携、日頃から地域に併せた防災体制とふれあいのコミュニティを作る。）
・電子会議の活用、説明会等のリモート化
【公共施設】
・利用者のソーシャルディスタンス[33]の確保（３密[34]回避のための対応。ソフト・ハード両面で）
・公共施設のみならず全ての場所で、３密を避ける対策をとる
【その他】
・企業支援　誘致や起業家への門戸開放（イノベーション[35]企業への支援、社会インフラとして存続している企業への支援を通して上尾の存続価値を高めていく）
・デリバリー、持ち帰りのための専用サイトの構築
・商業施設・公共施設での遠隔体温測定装置導入
・重症化リスクを減らすため、高齢者向け体力増強プログラム拡充
・市内ウォーキングコースの設定と PR（「あぴぽ」で点数化）
・スマートシティを目指す

---

32 小規模な集団感染や、それによってできた感染者の集団のこと
33 社会的距離のこと。他人と距離を置くことを意味する
34 密閉＝換気の悪い空間　密集＝多数の人が集まる場所　密接＝間近で会話や発声をする場面　この三つの「密要素」の総称
35 「創造的なアイデアを実行に移すことで、その企業自身や世の中に新しい価値や利益をもたらす変革」を意味する

・ＩＯＴ[36]の環境整備

防災・防犯・交通安全

【防災】
- 新しい避難所運営
- 避難施設・防災倉庫でのマスク・消毒薬・検温器の備蓄増加
- 避難所でのパーテーション設置
- 体育館等の施設で吸排気設備の導入。または、サーキュレータ等を複数台設置して吸排気
- ソーシャルディスタンスに配慮した避難所の設計
- 避難所における対策（３密を防ぐ）自宅や親せきの家に避難も検討
- 複合災害に対応できるように避難所のあり方を考える。仮称（救援センター）など
- 災害時（水害）に避難前にすでに感染者がいた場合、他の地域や広域避難、親戚や友人宅に避難することは、感染拡大を考えると非現実的なのでは無いか

【防犯】
- 店舗休業中における窃盗被害等の防止・防犯カメラのリモート化、管理システム強化
- 巣篭もりでも、決まった時間に買い物や外出をしない。狙われやすい

【交通安全】
- あおり運転などの（車、自転車）の講習会
- スマートモビリティ[37]の推進

【その他】
- 新しい生活様式を柔軟に活用し、更に上尾市独自の基準を構築する。
- 各自治区の専属スタッフが行政と新たな感染者など情報をやり取りするシステムを構築（ただ、個人情報の取り扱いは慎重に）
- 事業者の経済活動を消費者が支える
  感染症対策を実施しているお店、テイクアウトやデリバリーをしているお店、地元食材の販路拡大を目指す事業者の動き等の情報を消費者に発信
- 自粛の結果、心身の活力低下。健康二次被害予防策の実施
- 生活困窮者への相談体制の整備

---

36 『Internet of Things』を略したもので、『アイオーティー』と読む。モノがインターネットを経由して相互に通信すること。今いるところから離れた場所の状態を確認したい場合や、その場所の中にあるものの状態を変えたい場合の全てが適用されるもの。例えば、外出先からスマートフォンで、家のエアコン操作ができるようになるなど。

37 従来の車のみならず、交通システム全体のスマート化。人の移動を効率化する新時代のテクノロジーの総称

福祉
・コロナと共存、徹底した対策（科学的、合理的に） ・オンライン化の徹底 ・ストレスへの対応 ・夏場、マスクをつけての熱中症に気を付ける。また、どうしたらよいかの指導 ・外出が出来ず、体力が低下しないために、軽い体操等を発信する。（動画の配信） ・コロナによる失業者を積極的に福祉や介護の仕事へ結びつけることができないか 個別に相談ができる人的、資金的支援を行い、可能であればマッチングまでする。 現場での研修などへも資金的援助ができれば、なお可。 職住接近の人が増えることにつながればいいと考える。

都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園
【都市基盤】 ・上尾道路沿道の生活道路と住環境の整備を急ぐ ・ネットワークインフラ[38]の増強、通信回線整備（高速通信回線） 【公共交通】 ・交通手段の分散化（徒歩、自転車、公共交通） ・公共交通機関のリモート（スマートモビリティ） ・時差通学、通勤 ・徒歩や自転車の利用 ・３密回避に伴う自転車利用の一層の推進（自転車道の整備、自転車利用ＰＲ） ・自転車の街キャンペーンは継続するのか？ もし継続するのであれば、with コロナを考慮し道路/駐輪場の整備、何故今自転車か？を含め、根本的に取り組みを考える必要が有る 【環境】 ・資源リサイクル増加・ごみ削減への取り組みへの比重を高める ・非常時におけるごみ収集回数の強化 ・グリーン・リカバリーの推進 ※新型コロナウイルスによってダメージを受けた社会・経済を、パリ協定やＳＤＧｓと整合した、脱炭素で、災害や感染症にレジリエント（強靭）な社会・経済に、そして生態系と生物多様性を保全するようなグリーンな復興を目指すもの 【緑地・公園】 ・個人所有地を含めた、土地の有効活用と市民が自由に入れる大規模緑地を整備する ・公園等利用者へのコロナ対策啓発 ・集団での公園利用は避ける

[38] 通信回線や通信機器、各種サーバなどのネットワークを構築する上で必要な資源のこと

【その他】
- 持続可能なワークスタイル・ライフスタイルの実施
- 空き店舗のレンタルオフィスや会議室などに利用
- 少人数での行動
- 短時間での消費活動
- 咳エチケットとマスク
- 混雑を避ける（空いている時間に）
- 買い溜めをしない

子育て

- 新しい生活様式を柔軟に活用し、更に上尾市独自の基準を構築する
  ①学校等の臨時休校や行事の開催の判断など
  ②再度、休校が発生した際を想定し、ネット環境を利用した学習の構築を行う
- 対面する必要のない相談環境の充実（オンライン相談等）
- 学童施設の充実と教育機能の併設（ICT 施設の導入等）
- 家庭保育の充実
- 保育環境の見直し（人材とスペース確保へ支援）
- 子育て運動場の設置（施設近隣に隣接したエリアの開放公的施設も交えて）
- 感染拡大を恐れるあまり、子どもの遊びの機会が失われないよう、学校や学童、保育所の活動が、温かく見守られるように。子供が公園で遊んでいると通報されるというようなことが無い上尾であってほしい
- セーフティーネットの強靭化…働きたくても働けない人の救済
- 親が新型コロナウイルスにかかってしまった場合の子どものセーフティーネット[39]をどうつくるか。
- 子どもにコロナウイルスのことをどう伝えていくのか
- 子育て支援相談事業がどうできるのか
- お互いに安心できる距離感をどうつくっていくか。赤ちゃん・子どもは濃厚接触が基本にある。
- 子育て、妊娠、出産が、より孤立しやすい状態をどう改善していったらいいのか
- 全国的な事であると思うが、児童虐待には迅速に対応できる地域であってほしい
- テレワーク[40]などにより、子どもへの虐待や DV[41]も増加しているというニュースを聞いている。

---

39 網の目のように救済策を張ることで、全体に対して安全や安心を提供するための仕組みのこと
40 情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと
41 「ドメスティック・バイオレンス」の略。一般的には、「配偶者や恋人など親密な関係の者から振るわれる暴力という意味

ホームスタート[42]や乳幼児以降の個別訪問などを充実されて事件になる前の段階への予防的アプローチを強化できるとよいのではないか。
その場合、専門職者である必要はなく、ボランティア等を組織し、資金面等を支援しながら行う方が望ましいと考える。
利用者が構えずにすみ、ハードルが低いことにメリットがあると考えるためである。

文化・スポーツ

【スポーツ】
・正しい知識で感染を過度に恐れずスポーツを楽しむ意識の醸成
・スポーツは十分な距離をとって行う
・適度な運動を行い、体力の強化を図る
【文化】
・オンラインでの活動発表の場づくり
・伝承事業等は個別化して全体での集まりを減らす
・再開した講座や集会の実施ノウハウの発信
・サークル等で部屋を使用する時は今までの半分の人数で行う
・検温、アルコール消毒、マスクの徹底をして入室する
【共通】
・健康で豊かな生活を送るためのスポーツ・文化との共存を図る
・孤立しない様に横との連携を深める
・施設の利用に密を避ける計画
・日記を書く（誰にあったか記録する）
・新しい生活様式を踏まえてイベントの開催
・新しい生活様式の具体的な実践が必要
・自己管理、自立した市民社会、公と私の管理の確立
・睡眠を十分にとる
・無駄な外出を避ける
・帰宅時に手洗い、うがいを行う
・暴飲暴食を避ける

[42] 未就学児が１人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が訪問する「家庭訪問型子育て支援ボランティア」のこと

教育
【オンライン化】 • オンライン化（不登校対策にもなるので、常に実施。そのための設備を充実させたい） • オンライン授業化 • オンラインでの学習環境の整備（緊急事態だけでなく、不登校児にも対応できるような） • 子どもの学びを止めない • 1 人に 1 台のタブレット[43]と Wi-Fi 環境が無い子供への支援 • 小中学生への PC 配付の早期実現 • オンライン授業に不慣れな教師への支援 • 電子図書館の開設 【教育体制】 • 教員の定数増 • 学力格差を埋めるための教員の増員と心のケアのためのスクールカウンセラーの常駐 • 連帯感、みんなで作り上げる達成感等を、オンライン授業をした場合でも注意して盛り込む • 少人数学級を常態化（全校規模で実施） 【施設整備等】 • 体育館等の施設で吸排気設備の導入。または、サーキュレータ等を複数台設置して吸排気 • 将来的には学校と病院が併設された施設を作る。実現困難な事例ではある、全国的にアピールはできる • フェイスマスク、消毒液、雑巾、ペーパータオル等の給付（最低限必要なものは現場の意見を参考にする） 【その他】 • 密でない形で集合してもらい、お互いの存在を肌で感じてもらう • 音楽会等感染が懸念されるものは今後も廃止するか縮小するか。縮小するにしても感染リスクが少なく、かつ学校に負担がかからないような方法で行う

産業
• オンライン会議システム導入に関する補助金 • 自転車の一層の活用の推進 • 社会システムが変化するので、新しい企業活動 • スマートシティを目指す • 電子会議の活用、説明会等のリモート化

[43] IT の分野では小型のコンピューターの入力装置のひとつ。

・すでに新型コロナウイルス感染症の第二波が予測されており短期間での新型コロナウイルスの制圧はできない可能性が高いと考えられる。持久戦を覚悟した長期的な計画が必要。経済活動にも配慮した施策が必要。

その他全般的な観点からの「新型コロナウイルスと共存するための取り組み」についてのご意見一覧

その他ご意見
・新型コロナウイルス感染症によって変わったこととは ＊市民の社会参加と連帯の大切さの発見（社会価値の再発見、つまり１人１人の行動変容が日本の命運までも左右する姿を見せつけられた。） ＊国家の復権と政府の役割の重要性（グローバル化[44]の問題点、課題、反省点を踏まえ、今回の対応を検証記録し将来への提言も含めた対策を真剣に取組む真の政治家を選ぶ責任が市民にもある。） ＊企業のイノベーションと社会存的存在の必要性（マスク、医療機器、医療設備、医療人材を含めた安全保障枠組みの見直し　生産設備体制の国内回帰　人材育成など他国に頼らない体制構築が急務であり、国産製品の購入など一市民として支援する考え方も大切である。） ・市役所での申請手続きのオンライン化を望みます。 危機管理防災課の避難所のガイドラインや教育委員会のコロナ対策マニュアルなど一般の方向けではありませんが、よくできているので多方面で活用されては。 ・複合災害においては、避難所運営担当職員に他通常業務も必須であり、市の職員が足りないことは明らかです。 民間との協働も必要かと思います、今後もワクチンや特効薬が量産されるまで年単位での先の長い取り組みになるので「with コロナ」の時代に「新しい生活様式」を入れた市民生活や行政体制が必要になるのでは無いでしょうか？ ・テレワークやオンラインによる様々なサービスが進むと、都市の価値も変わっていくのではないかと考えます。 昼間人口が増えて街への見方や関わり方が変わっていく人が出てくることにちょっぴり期待しています。 ・新型コロナウイルスに限らず、感染症予防対策には日頃からの免疫力の強化が必要です。免疫力が低下すると感染症にかかりやすくなるため、日頃から免疫力をつける対策（健康管理）が必要です。 　また、重篤になる原因として基礎疾患があります。基礎疾患には糖尿病、高血圧などがありますが、日頃の健康管理はこれら疾患の予防につながります。 　健康管理には、「栄養（食事）」、「運動」、「休養」、「ストレスを抱え込まない」などが

44　これまで存在した国家、地域などタテ割りの境界を超え、地球が１つの単位になる変動の趨勢(すうせい)や過程

あります。健康講座等で、これらの知識を学び、身につけることが大切です。

・日本の学校はあまりにも「密」すぎてコロナとの共存のみならず災害等に弱いと思う。教育に予算を回さなかった結果でもあるので、改善を望みたい。

・教員の定数が増えないと新しい取組みも研究もできないので、定数増が絶対必要

・病院や医師の数が全国で一番少ない埼玉県に住んでいることをこれほど心細く思ったことはありませんでした。なので上尾市に PCR 検査場ができたというニュースはとても誇らしく、心強かったです。

　また、マスク不足の中、小中学校でマスクの種類を問わずに（白だけとか言わず）いてくれたことも心強かったです。不安が高じると不寛容な気持ちになるもので、安心できると人にも寛容であれるのだと思います。感染防止に取り組みながら、正しい寛容さが市内のあちこちで見られる上尾市でありたいと思いました。

・今回の感染状況はマスコミでの情報のみ入手する方法であり、身近な地域における情報がほとんど少なく、例えば、市内における感染状況、市の感染防止体制など地元の危機体制状況を知る情報など少なく、不安を感じる市民が多かった。市としては、市広報の号外版により環境を周知して欲しかった。

・学校の様々なイベントは、大幅に見直す良い機会となりました。併せて学習内容も見直す良い機会です。人の命が確実に守られるように、現在の教育内容が満杯の状態の学校現場（様々な学習内容が十分に教えられていないと思われている現実）を見直すことが重要と考えます。この際、本気でスリム化した学校をみんなで考えていけるといいかなと思います。

・市民一人ひとりが、それぞれの分野において（どの分野というより）厚生省より示されている「新しい生活様式」を最低限守るべきルールとして生活し、活動することが大切な事と思います。

・大都会のような大きな機能を持った密集地では、どうしても感染率が高くなっている。郊外にいてテレワークやオンラインを利用して、仕事も生活や学業の向上をある程度までこなせることが可能になった。

　これまでのように通勤や通学に便利なところに居住を持たなくても郊外でゆったりと暮らすことを若い人も考えられると思う。その方向からの施策も考えられると思う。

・コロナ禍を逆手に取り、上尾の良さを強くアピールしていきたい。

（在宅ワークのできる余裕のある広さの家が比較的安価に購入できる。
上尾は大災害時の被害が少なく、より安全に子育てができる住みやすいところ。
緑も多く、休日には家族で家庭菜園も楽しめる。　　とか）

・基本的生活習慣の中にコロナ対策を位置付ける。

・今後の危機管理の考え方を根本的に改める。

・長年公民館で、日本語教室に関わってきたが、今までの考え方が全く通用しなくなった。マンツーマンで隣りに座り言葉だけでなく、個人的な相談にも乗ってきたが、「新しい生活様式」では、それが許されなくなった。公民館活動をするすべての団体が、試行錯誤しながら進めていくしかない。

・人の関係がつくりづらくなっている社会の状況の中、虐待や DV 等身近な人間関係が大変になっている家族や親子の方がたくさんいるかもしれなくて実態も分かりづらくなっているように思います。
　新型コロナウイルスのことも、正しく知っていけるような取組みが必要だと思います。特に子供と新型コロナウイルスの関係については、あまり情報がないように思うので、子育てしている方、これから子供を持つ方が安心して産み育てることができるような情報があること、人との関係がつくられていることが大事だと思います。
・ＩＯＴの環境整備
・コロナ対策啓発

★　あげお未来創造市民会議委員名簿

※５０音順　敬称略

No.	区分	団体名等	氏名
1	第４条３項委員	一般公募選出	飯塚　純
2	第４条１項委員	特定非営利活動法人マミング埼玉	市倉　育江
3	第４条１項委員	上尾市ＰＴＡ連合会	伊原　広茂
4	第４条１項委員	上尾市花卉園芸研究会	大木　晴夫
5	第４条１項委員	上尾市防災士協議会	大澤　サユリ
6	第４条３項委員	一般公募選出	大塚　常司
7	第４条１項委員	上尾市街づくり推進会議	岡部　千里
8	第４条１項委員	街づくり協議会	小川　和男
9	第４条１項委員	上尾市環境推進協議会	小川　早枝子
10	第４条１項委員	上尾ものつくり協同組合	河原塚　透
11	第４条２項委員	株式会社中広（あげいる）	木村　功一　※１
12	第４条１項委員	こども食堂「とまと」	桐原　陽子
13	第４条１項委員	上尾市人権擁護委員会	小島　勝
14	第４条３項委員	一般公募選出	小牟田　健治
15	第４条１項委員	上尾市交通安全母の会連合会	鈴木　靖代
16	第４条１項委員	上尾市国際交流協会	関本　正弘
17	第４条１項委員	消費者被害防止サポーターの会	高橋　雅之
18	第４条１項委員	社会福祉法人あげお福祉会	竹村　絵里
19	第４条１項委員	上尾市いきいきクラブ連合会	○刀根　正克
20	第４条３項委員	一般公募選出	中澤　正俊
21	第４条１項委員	上尾市文化団体連合会	野田　紘良　※１ 横堀　鶴雄　※２
22	第４条２項委員	元小学校教諭	能登　貢
23	第４条１項委員	特定非営利活動法人あげお学童クラブの会	萩原　和也
24	第４条１項委員	上尾市食生活改善推進員協議会	本城　文夫
25	第４条３項委員	一般公募選出	増田　澄雄
26	第４条１項委員	女性フォーラムあげお	的場　保子
27	第４条２項委員	上尾地区ビジネスキャリア・エンジョイサークル	宮田　敬生
28	第４条１項委員	上尾市スポーツ協会	◎矢島　通夫
29	第４条１項委員	上尾市公民館運営審議会	山尾　三枝子
30	第４条１項委員	ＮＰＯ法人　彩の子ネットワーク	山口　直

（◎は委員長　○は副委員長）

※１　第６回市民会議まで委員

※２　第７回市民会議から委員

★あげお未来創造市民会議委員名簿（テーマ別グループ）

【テーマ別グループ】

①　第１回～５回	②　第６回～８回（協議テーマ１）	③　第９回～１１回（協議テーマ２）
A　安心・安全・人権	A　健康・医療	F　都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園
B　健康・福祉・生涯学習・スポーツ	B　協働・コミュニティ	G　子育て
C　地域づくり・産業・環境	C　行財政運営	H　文化・スポーツ
D　子育て・教育	D　防災・防犯・交通安全	I　教育
	E　福祉	J　産業

【テーマ別グループ委員名簿】

No.	氏名	テーマ別グループ			No.	氏名	テーマ別グループ		
		①	②	③			①	②	③
1	飯塚　純	D	C	G	17	高橋　雅之	A	D	F
2	市倉　育江	D	D	J	18	竹村　絵里	B	E	G
3	伊原　広茂	D	D	I	19	刀根　正克	B	D	H
4	大木　晴夫	C	A	J	20	中澤　正俊	C	C	F
5	大澤　サユリ	A	D	F	21	野田　紘良	B	―	―
6	大塚　常司	D	D	G	22	能登　貢	D	A	I
7	岡部　千里	C	A	F	23	萩原　和也	D	C	G
8	小川　和男	C	C	F	24	本城　文夫	B	B	H
9	小川　早枝子	C	C	F	25	増田　澄雄	B	A	F
10	河原塚　透	C	C	J	26	的場　保子	A	B	I
11	木村　功一	A	―	―	27	宮田　敬生	C	C	J
12	桐原　陽子	D	E	G	28	矢島　通夫	B	E	H
13	小島　勝	A	B	H	29	山尾　三枝子	B	B	I
14	小牟田　健治	B	A	J	30	山口　直	D	B	G
15	鈴木　靖代	A	E	H	31	横堀　鶴雄	―	E	H
16	関本　正弘	A	B	I					

★　あげお未来創造市民会議要綱

（平成３１年　4月　2日
市長決裁）

（設置）

第１条　 第６次上尾市総合計画（以下「総合計画」という。）の策定に関し、市民の意見、要望等を取り入れ、それらを総合計画に反映させるため、あげお未来創造市民会議委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第２条　委員は、総合計画を構成する基本構想及び基本計画について、総合的な観点から意見を述べ、提案を行うほか、総合計画の策定に関し必要と認める職務を行うものとする。

（定数）

第３条　委員の定数は、３０人以内とする。

（委嘱）

第４条　委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

⑴　市内の公共的団体に属する者で、当該公共的団体の推薦するもの

⑵　市政の各分野において豊富な活動経験を有する者

⑶　市政について関心を有する者で、公募により選考されたもの

（その他）

第５条　この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、決裁の日から施行する。

（この要綱の失効）

２　この要綱は、令和３年3月３１日限り、その効力を失う。

★　あげお未来創造市民会議の取組み状況について

STEP	開催日時	ワークショップの内容
イントロダクション	第１回　令和元年 ５月２５日（土） ９時～１２時	○市民会議の概要説明等 ■グループ討議 「第６次上尾市総合計画を策定するうえでの前提条件の考察」
STEP１	第２回 ６月１５日（土） ９時～１２時	■グループ討議 「シナリオプランニング①～私たちが望む上尾の姿～」
	第３回 ７月６日（土） ９時～１１時	■グループ討議 「シナリオプランニング②～望ましい上尾の姿の実現のために～」
STEP２	第４回 ８月９日（金） ９時半～１１時半	■グループ討議 「将来都市像・基本理念の検討」
	第５回 ９月２７日（金） ９時半～１１時半	■グループ討議 「まちづくりの基本方向の検討」
STEP３	第６回 １１月１日（金） ９時半～１１時半	○施策イメージの共有等 ■グループ討議 「施策に対する意見検討①」（協議分野１の理想の状態）
	第７回 １１月２９日（金） ９時半～１２時	■グループ討議 「施策に対する意見検討②」（協議分野１の必要な取組）
	第８回 １２月２０日（金） ９時半～１２時	■グループ討議 「施策に対する意見検討③」（協議分野１の市民／行政の役割）
	第９回　令和２年 １月１７日（金） ９時半～１２時	■グループ討議 「施策に対する意見検討④」（協議分野２の理想の状態）
	第１０回 ２月７日（金） ９時半～１２時	■グループ討議 「施策に対する意見検討⑤」（協議分野２の必要な取組）
	第１１回 ３月　書面開催	■グループ討議 「施策に対する意見検討⑥」（協議分野２の市民／行政の役割）、「将来都市像・基本理念の検討」
	第１２回・第１３回 ５月　書面開催	■グループ討議 「提言書の検討①②」（提言書の内容確認①②）
	第１４回 ７月１３日（月）	■提言書提出に向けた準備 「提言書の発表に向けた準備」
	第１５回 ８月５日（水）	■提言書提出 「提言書の発表・提出」

第６次上尾市総合計画の策定に向けた市民会議提言書

あげお未来創造市民会議

２０２０年８月